

令和7年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要 むらづくり部門

山の恵のお裾分け コムニタに集って語って挑んで

○集団等の名称 農事組合法人 農村資源開発共同体（代表 山崎 広美）

○所 在 地 福井県今立郡池田町

○受賞理由

・地域の沿革と概要

池田町は、福井県南東部に位置し、北は福井市、東は大野市、南は岐阜県、西は越前市と南越前町に接し四方を山に囲まれている。地形は急峻で、町の総面積の約91%が山林で占められる中、稲作が盛んで、朝夕の寒暖差が大きく、品質が高い。また、降水量が多く、県下でも有数の多雪地帯であり、特別豪雪地帯の指定を受けている。

・むらづくり組織の概要

昭和59年に「池田町農協青年部」が結成され、農業を軸とした地域おこし活動が開始された。その後、本格的に取り組むために平成6年に20～40代の23人が出資し「農事組合法人農村資源開発共同体」（通称：コムニタ）を設立した。平成8年には念願の活動拠点施設「ファームハウス・コムニタ」をオープンし、農業生産に加えて体験・飲食・宿泊事業を開始した。コムニタの現在のメンバーは組合員21名、雇用者14名で、それぞれが「事務」「農業」「宿泊・体験」「加工品」「米粉パン」の5つの部門に分かれ活動している。

・むらづくりの取組概要

（1）農業生産面

- ① 設立当初から農薬を通常よりも80%削減した減農薬、化学肥料を使用しない農法で米を生産し続け、平成12年から「ゆうきげんき正直農業」、平成18年から「生命に優しい米づくり」を先導した。また、令和7年からは、さらなる品質の向上を目的とした「未来へ耕す池田米」にも取り組み、池田町の環境保全型農業の推進に寄与している。
- ② 池田町産米を使用したお粥のレトルト、丸餅、かき餅、米粉100%パンの他、豆乳スコーンやブランドトマトを利用したハッシュドビーフなど地元農産物を活用した加工品開発を行っている。さらに町産木材を活用したキッチンカーを製作し、コムニタの米粉100%の米粉パンに池田町の产品を挟んだパニーニ風ホットサンドを販売するなど、地元農産物の普及やブランド化に貢献している。

（2）生活・環境整備面

- ① ファームハウス・コムニタは、池田町の良さを伝える交流拠点として宿泊や体験事業を展開し、町外の利用者に池田町の郷土料理を食事や体験として提供したり、農業体験、自然体験などを行い、食文化の伝承や農村生活への理解を促進するとともに、池田町民の交流の場にもなっている。
- ② 宿泊・体験事業により池田町の関係人口創出に貢献し、また、コロナ禍を契機にワーケーションの取組を開始し、移住希望者などの短期滞在の拠点にもなっている。
- ③ コムニタのメンバーは農村観光協会の役員や各地域のリーダーを担うなど、町全体の支援・土台作りに貢献している。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、農業を核に、地域資源を活用した加工品開発や農業体験、観光など幅広い活動となっており、活動拠点施設は地元住民や移住者、若者の居場所として地域内の交流だけでなく、移住の促進にも役立ってきた。また、町の賑わい創出と関係人口の拡大に向けて町内の様々な団体と協働し、創意工夫を重ねている。町全体を巻き込んで農業の振興や地域活性化に取り組んでいる本取組は、全国のむらづくりのモデル事例になり得るものである。